

# トウモロコシまつりで旬の味を楽しむ

夏の味覚、獲れたてのトウモロコシを味わおうと、達生堂グループは7月11日、通所リハビリセンター「茶釜の湯」で、トウモロコシまつりを開きました。職員や家族が集まり、近くの畑でトウモロコシの収穫体験をし、獲れたての甘いトウモロコシを味わっていました。

昨年は公益財団法人「茨城国際親善厚生財団」(IIFP)と茨城を食べよう運動推進協議会が、七夕の日に合わせて東京・新宿の人たちに結城市の特産物、トウモロコシを味わってもらおうと朝一番に収穫されたトウモロコシ 3500 本を無料配布しました。

今年も新宿で無料配布しようと計画。茶釜の湯からほど近い畑で、白井平八郎県議を通じてトウモロコシ約 3000 本を育てていました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるため、新宿での配布を中止し、トウモロコシまつりを開きました。

まつりは、職員とその家族など約 100 人が参加。介護職の中国人技能実習生 10 人も参加し、にぎやかに行われました。朝獲りのトウモロコシをゆでたり、焼いたりして、その味覚を楽しみ、茶釜の湯の利用者たちにもトウモロコシがふるまわれました。

近くの畑には子供たちが押しかけて、トウモロコシの収穫を体験しました。「どのトウモロコシがおいしい」と畑の中に分け入り、初めてのトウモロコシ獲りを体験した子供たちは、笑顔いっぱいにトウモロコシを抱えていました。新宿にもトウモロコシをおすそ分けしました。

2020年7月15日



トウモロコシまつりに参加した技能実習生たち



茨城新聞でトウモロコシまつりが紹介されました

